

貞山運河の眺望満喫

名取・関上 周遊船が就航



東日本大震災で被害を受けた名取市関上地区で7日、商業施設かわまちてらす関上を発着し貞山運河などを巡る周遊船「ゆりあげ丸」(0・8t)の運航が始まった。市は運営主体のマリンメカニック(宮城県七ヶ浜町)と連携し、約900万円をかけて船や船着き場を整備した。運河など水辺を生かしてにぎわいをつくる。

◇
ゆりあげ丸は繊維強化プラスチック(FRP)製で全長7・2m、定員11人。日曜祝日は、貞山運河を通り、ゆりあげ港朝市や市サイクルスポーツセンターとの間を往復する貞山運河コースを1日3便本格運航を始めた「ゆりあげ丸」。第1便には関係者が乗り込んだ。7日

風速計導入 安全策を徹底

運航。月曜と水・土曜は名取川遊覧コースを5便運航する。

7日は第1便に関係者が乗船して景色を楽しんだ。山田司郎市長は「爽やかな風を感じながらの眺望が観光資源だ」とPRした。

運営側は、北海道・知床半島沖での観光船事故を受け、ライフジャケットの用意など安全対策を改めてチェックした。座礁を防ぐため干潮時に浅瀬エリアの状況を確認したほか、風速計を導入し風速6mを超えて運航を取りやめる。

関上地区では、2018年度からマリン社の周遊船「第8喜多丸」(定員25人)が運航され、内湾の広浦などを巡っている。市は貞山運河も活用しようと新たな周遊船の導入を企画。建造には宮城第一信用金庫(仙台市)の企業版ふるさと納税も活用した。

乗船料金は500円。貞山運河コースの大人のみ700円となっている。